

「25条集会」に参加された方の感想を紹介します(9)。

佐藤 宏和(62才・道生連副会長)



「生活保護アクション」と冠しての全国集会は初めてでは

ないだろうか。「生活保護制度・基準を守れ」と各界の名だたる知名人も呼びかけに加わっていたのです。作家の早乙女勝元氏、樋口恵子氏、香山リカ氏、ノーベル賞受賞者の益川敏英氏など、多彩な人達が生活保護問題で社会的にアピールするなど考えられなかった事です。

生活保護が国民の生活を保障

し人間の尊厳をまもるために、大事な制度である事が広がって来たこと



各地の訴えは、上から、高齢加算復活裁判・京都、高校生奨学金裁判・福島、生活保護費裁判・神奈川、福岡、作業所で働きながら生保を利用する知的障害者・東京の順でした。

を改めて実感させられた充実した集会でした。

様々なバッシングをうけながらも、母子加算裁判、新・人間裁判とたたかってきたことが、誤解や偏見を取り除き、生活保護制度に対する正しい理解を広めることにつながっていると感慨深く参加していました。

金子勝慶応大学教授の発言は、安倍政権の無法な強権政治を痛烈に批判し、「憲法25条で保障された最低限度の生活をも壊している。頑張らなくてはいけない」と元氣のでの訴えがあり「その通り」と共感の拍手を送りました。

戦争法案阻止で共闘した野党5党代表が勢揃いしたことも、これからの運動に確信と希望を

与えてくれました。憲法25条は絶対守る。そして生かせる社会をめざしたいと決意を固めた意義深い集会でした。

松崎 マサ子(69才・道生連常任理事)



日帰りの強行スケジュールでしたが、とても感動した一日でした。

まず、「道本部班」から5人の原告が手を挙げて、参加したことです。名前も出し、生活保護の切り捨ては許さない、自分だけの問題ではなく、貧困を無くす運動の一つとして、シッカリと心に刻んでいることに感動しました。

当日までは、何度も体調を確認し、予定通り全員が出発できました。「各地からの報告」で

新・人間裁判原告団長の後藤昭治さんが登壇した時には、原告と生活保護利用者18人が一緒にステージ上にあがり、横断幕もかかげてアピールできました。本部班の誰もが「こんなに仲間が大勢いるということが、裁判に立ち上ったからこそわかることができた」との感想を述べていました。生活保護を利用して行動することのすばらしさを実感し、勇気をもった集会でした。

ふくしの窓

<2015年11月28日 第974号>

北海道生活と健康を守る会連合会(道生連)
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
☎ (011) 736-1722
FAX (011) 736-1688
メールアドレス: doseiren@joy.ocn.ne.jp